

感染予防行動のうち「目鼻口に触らない」の実施率が最も低い

—COVID-19 アウトブレイク時における一般市民の予防行動に関する研究結果—

【ポイント】

- 2020年2月25日に日本人男女2400人を対象にインターネット調査を実施しました。
- WHOが推奨している5つの予防行動の実施率はそれぞれ60%から85%程度で、最も実施率が60%と低かった予防行動は「目や口や鼻を手で触らない」でした。
- 5つの予防行動を全て実施しているものは34.7%のみでした。
- 予防のために石鹸による手洗いやアルコールによる手の消毒を実施していると答えた人の中にも、実際にはその回数が不十分な人が多くいることがわかりました。

東京医科大学公衆衛生学分野の町田征己らは、2020年2月25日に関東地方在住の20-79歳の男女2400人を対象に、新型コロナウイルス感染症アウトブレイク時における一般市民の予防に関する考えと行動に関するインターネット調査を実施しました。その研究成果が2020年4月10日に国際医学雑誌 International journal of infectious diseases オンライン版で発表されました。

【研究成果の概要】

2020年2月25日にインターネット調査を実施し、関東地方在住の20歳から79歳の男女2400人にWHOが推奨している5つの予防行動（石鹸による手洗いや手のアルコール消毒、人混みを避ける、目や口や鼻を手で触らない、咳エチケット、体調が悪い時は家で過ごす）¹の実施状況を回答してもらいました。その結果、それぞれの実施率は60%から85%程度で、最も実施率が低かったのは「目や口や鼻を手で触らない」という予防行動でした。すべての予防行動を実施している者は男性や65歳未満の方で少なく、全体の34.7%のみでした。

また、手洗いや手のアルコール消毒を実施していると答えた方に実際の一日あたりの手洗いや手のアルコール消毒の回数を聞いたところ、半数以上の方が1日あたり6回以下でした。これは、手洗いや手のアルコール消毒を行うべきタイミング²を考えると不十分な回数で、予防行動を実施している人の中にも、実際には不十分な人が大勢いる可能性が明らかになりました。

「目や口や鼻を手で触らない」という予防行動は、手指衛生や咳エチケットなどと比較して、行政パンフレット等でもあまり目立たない予防法になっていますが、感染症予防の観点からはこれも非常に重要なポイントです。今回の研究結果より、この点を市民の方々にさらに強力に啓発することの重要性が明らかとなりました。また、それぞれの予防行動の具体的な実施方法をお伝えし、適切に実施できる市民を増やすことが必要と考えられました。

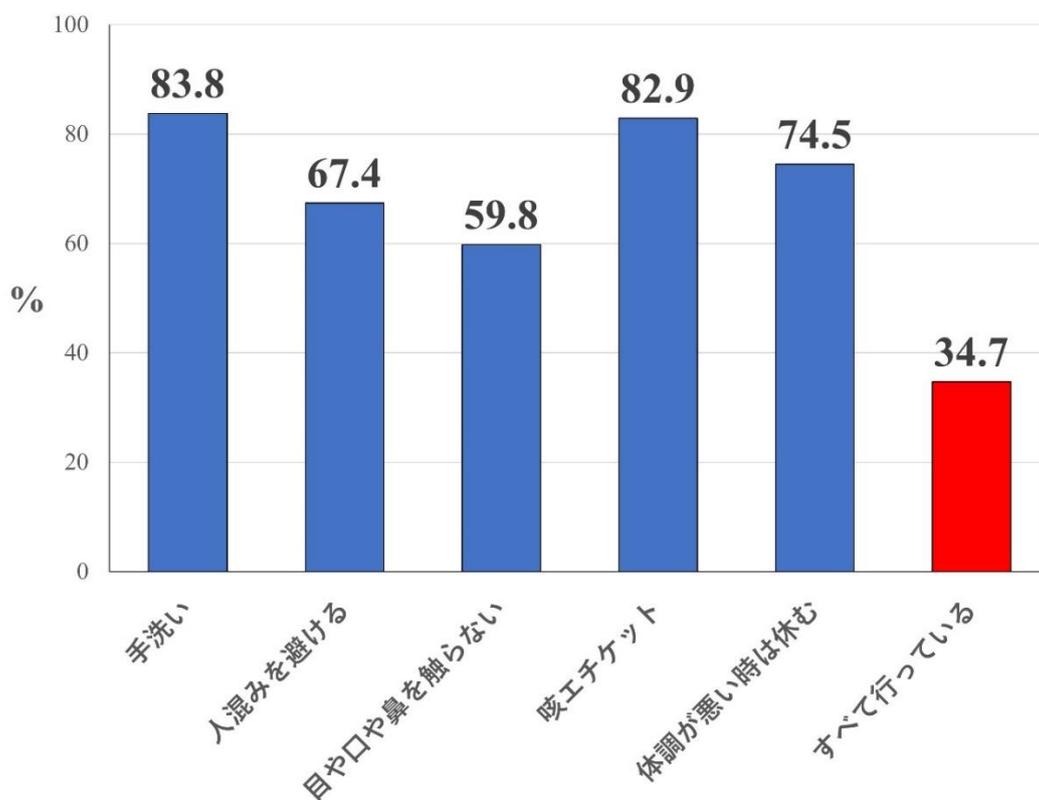


図. 日本の一般市民による予防行動の実施状況

論文情報

掲載紙： International Journal of Infectious diseases

論文名： Adoption of personal protective measures by ordinary citizens during the COVID-19 outbreak in Japan.

著者名：町田 征己、中村 造、齋藤 玲子、中谷 友樹、埴淵 知哉、高宮 朋子、小田切 優子、福島 教照、菊池 宏幸、小島 多香子、渡邊 秀裕、井上 茂

DOI：10.1016/j.ijid.2020.04.014

参考文献：

1. World Health Organization (WHO), Basic protective measures against the new coronavirus. <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/advice-for-public>
2. U.S. Centers for Disease Control and Prevention (U.S.CDC), Handwashing: Clean Hands Save Lives. <https://www.cdc.gov/handwashing/when-how-handwashing.html>

【問い合わせ先】

東京医科大学 公衆衛生学分野 氏名：町田 征己、井上 茂

E-mail: TMUPHIC.2020@gmail.com